

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Reported beverage consumed and alcohol-related diseases among male hospital inpatients with problem drinking. 飲酒関連の問題で入院している男性患者の飲酒量とアルコールに関連する病気の報告	
<b>執筆者</b>	
Coder B, Freyer-Adam J, Lau K, Riedel J, Rumpf HJ, Meyer C, John U, Hapke U.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Alcohol Alcohol. 2009 Mar-Apr;44(2):216-21. Epub 2009 Jan 12.	
<b>キーワード</b>	
アルコールに関連した病気、問題のある飲酒者、飲んでいるアルコール飲料	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> この研究の目的は、問題のある飲酒者が報告した普段飲んでいるアルコール飲料によって、アルコールに関連した病気にかかるリスクが違うかを調べることです。</p> <p><b>方法：</b> 4つの総合病院の通院範囲の一つから18- 64才のすべての連続した入院患者の飲酒について系統的に調べる断面調査を行いました。飲酒について問題を抱えた男性合計1011人がこの研究で調査されました。全参加者の通常の治療のための診断は、病院医師によって行われ、彼等をアルコール寄与分画 (AAF) によって3つのカテゴリに分類しました (AAF=0; AAF&lt;1; AAF=1)。</p> <p><b>結果：</b> 参加者の飲酒内容の報告によると、53.0%は、もっぱらビールだけを飲んでおり、14.1%はもっぱら蒸留酒だけを飲み、26.0%はビールと蒸留酒の両方を飲み、6.9%はもっぱらワインを飲むか、1・2種類の他の酒を組み合わせで飲んでいました (ワイン混合飲酒者)。蒸留酒飲酒者と比較し、調整可能な交絡因子(すなわち、アルコール関連の特性、人口統計学的変数)を調整すると、多項回帰式では、蒸留酒飲酒者に比べ、ビール飲酒者、ビールと蒸留酒飲酒者、ワイン混合飲酒者では、AAF=1の病気を持つオッズ比が低かったです。(例えばAAF=1のとき、:ビール飲酒者に対する蒸留酒飲酒者のオッズ比=0.42 : CI : 0.25-0.72)。また、蒸留酒飲酒者に比べ、ビール飲酒者とワイン混合飲酒者は、AAF&lt;1の病気であるオッズ比がより低かったです。(例えば、混合ワイ飲酒者に対する蒸留酒飲酒者のオッズ比=0.36、CI : 0.18-0.72)。</p> <p><b>結論：</b> こうしたデータから、参加者が報告した飲酒する酒の種類と、アルコール関連の病の間に関連が示されました。入院した飲酒問題を抱えた人の中で、蒸留酒飲酒者はAAF&lt;1とAAF=1の病気のリスクが最も大きかったです。</p>	